

告示	番号	81	内分泌疾患
	疾病名	副甲状腺機能亢進症	

副甲状腺機能亢進症

ふくこうじょうせんきのうこうしんしょう

概念・定義

原発性副甲状腺機能亢進症は副甲状腺ホルモン(PTH)の自律的な過剰分泌により、高カルシウム(Ca)血症、骨代謝異常を呈する疾患である。副甲状腺の腺腫によることが多いが、過形成、瘤によっても引き起こされる。腎機能が正常で高Ca血症とPTHの上昇という二つの状態があり、高Ca尿症があれば、本症の可能性が高い。

症状

高カルシウム血症、尿症。尿路結石。病的骨折、骨粗鬆症。重度の高Ca血症では、膈炎、消化管潰瘍、多飲・多尿、意識障害が見られることがあり、生命に危険のある高Ca血症クリーゼという病態となる。無症候で、臨床検査での異常のみのタイプを化学型と呼び、この頻度は比較的高い

治療

1. 外科手術

基本は手術により病的副甲状腺を摘除することにあるが、その適応基準については最新のガイドラインを参考とする。一般的には、血清Ca値が高く、尿路結石や骨変化、腎機能の二次的低下などの病的症状を伴い、副甲状腺の腫大が明らかな場合に適応となる。副甲状腺摘出後に、低Ca血症を来すことが多いことにも注意を要する。

2. 経過観察

軽度の低Ca血症(11.5-12.0 mg/dl以下)で無症状の場合は慎重に経過観察を行うことも可能であるが、進行性であることに注意する。

3. 高Ca血症クリーゼ

利尿やビスフォスフォネートなどによりできるだけ速やかに、血清Ca値を低下させる必要がある

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/5_14_26.html